

公表

## 令和7年度 放課後等デイサービス 自己評価総括表

○事業所名	おひさまはうす					
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日 ～ 令和8年2月15日					
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74名	(回答者数)	49名	(回答率)	66.22%
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日 ～ 令和7年2月21日					
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名	(回答率)	100%
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月24日					

## ○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの興味関心に沿った多彩な集団活動プログラムを設定していること	各曜日ごと、それぞれの集団に応じた活動プログラムを立案している。こどもの興味関心に沿って、毎月、柔軟な活動設定を行っている。	今後子どもたち一人ひとりの発達に沿った個別支援計画を立案し、活動を設定していく。またSTやMTといった個別療育も参考にしながら、活動プログラムに広がりを持たせていきたい。
2	こども一人一人に丁寧な関わりができるように十分な職員数を配置していること	十分な職員数を確保することでより柔軟にこども一人一人のニーズに対応できるようにしている。また、集団活動に入れないこどもに対しても、個別で対応ができ、こどもの意思を尊重した関わりを意識している。また、STやMTなどいろいろな職種や有資格者を配置している。	園外活動ではより多くの職員を配置していくことで、より安全に楽しく園外活動が行えるようにする。
3	こどもがのびのびと過ごすことができる施設環境	室内はバリアフリーに配慮した環境になっている。また、個室や音楽室などがあるため、個別にも対応できる環境になっている。活動室内には感覚統合器具が設置されていたり、園庭や砂場もあるため、こどもがのびのびと楽しく過ごすことができる環境になっている。	経年劣化している設備環境の定期的なチェックを欠かさず、こどもたちが楽しめるような設備があれば導入していきたい。
4	音楽療法は、言葉を超えて他者と響き合う喜びを肌で感じ、音楽で心を通わせるコミュニケーションができる。	個別のセッションを実施し、子どもの自発的な動きや音に即興演奏で応えることで、音による対話を生み出していく。自分の働きかけに反応がある体験は、子どもの表現意欲を促し、言葉を介さないコミュニケーションの原体験へと繋がる。	5名の音楽療法士が互いのセッション動画を確認し合い、支援内容に偏りが出ないように連携している。スタッフ間で知見を共有することで、一人ひとりの専門性を高め、より充実したセッションの提供を追求している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所外での活動が少ないこと	車の台数に限りがあったり、児童発達支援と並行して療育を行っているために、車両の使用に制限がかかってしまう。	車両を使用しなくても、徒歩圏内で豊かな戸外活動ができる場所を発見し、戸外の活動の機会を増やしていく。
2	送迎に時間がかかったり、送迎に行くことがむずかしいご家庭があること	送迎車両の台数に限りがあったり、送迎スタッフが不足したりすることで、広域の送迎には対応できていない。	送迎車両の台数や送迎スタッフの確保を行い、保護者のニーズに応えられるようにしていく。
3	長期休業中は16時で支援を終えること	学校通常校時の際は18時まで療育をしているが、長期休業中は16時になるため保護者の就業に対応できていない。	保護者からの聞き取りを行い、利用時間を検討していく。また、現在の職員の勤務時間では支援時間の延長等がむずかしいので、必要に応じて職員の勤務時間を調整する。
4	音楽療法室の広さに限りがあるため、ダイナミックな身体活動には、一定の制限が生じている。	施設運営上の空間活用として、大きな療育室は集団療育に優先配分されるため、個別音楽療法セッションは小規模な療育室にて実施している。	現在は集団療育がない日曜日に大きな療育室を利用することで活動の幅を広げている。より充実した療育環境を恒常的に提供するため、新拠点の設置を含めた環境整備を推進していく必要がある。